

園だより9月

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください。

詩編 25 編 4 節

年間予定通りに二学期が始められましたこと感謝申し上げます。

夏休みの間も、コロナ禍の中、それぞれご家庭で新しい生活習慣を守り、三密を避け過ぎておられたことと思います。お陰様で子どもたちは元気に登園し、夏期保育を楽しみ、二学期に向けての幼稚園生活リズムも整えられたように思います。

猛暑の夏でしたが、少しでも子どもたちが安心して遊びを楽しめる環境をと願い、体力的に大丈夫と思われる年長組のみ特別保育として1週間早く保育をスタート致しました。年長児だけの幼稚園、穏やかなときが流れ、其処此処で思い思いの遊びが展開されていました。ブランコ一つをとっても、子どもたちの挑戦したい気持ちが溢れており、小さな子たちが周りにいるときとは違った勢いやトライする意気込み満々な様子が見られました。じっくりと年長児の「今」を見守ることが出来、コロナ禍によって考えた特別な日々でしたが、視点を変えてみると与えられた恵みでありました。

夏休みは保育者にとって学びのときでもあります。今年は玉川大学教授 大豆生田啓友先生の研修から、江東YMCA幼稚園が子どもたちの主体性を尊重することの重要性を改めて確信させて頂きました。—なぜ、子ども主体の保育なのか？—『なぜ、保育は主体性を尊重するのか。その第一は、その子自身が自分が自分らしくあることを受容でき、何かに夢中になることで、個々の世界への希望や「幸せ」へとつながるからである。第二には、主体性を尊重することは、その子の「幸せ」だけでなく、私たちの社会の「幸せ」の探求につながるからである。自分が他者からリスペクトされると同時に、多様な他者をリスペクトする関係性(多様性への寛容さ)、つまり人と人とのつながり(連帯)の大切さを生み出す。それは、保育者と子ども、子ども同士だけでなく、家庭や地域をも巻き込むとき、子育てを通したまちづくり(社会的な連帯)へとつながる。それは、持続性可能な社会、民主主義の社会をつくる根幹が保育の場にあることを意味する』と先生は述べておられました。子どもたちと真摯に向き合い、教育的展望を持ちつつ、こどもたちの主体性を尊重し、自らの遊びを保証することが「持続可能な社会、民主主義の社会」をつくりだすことにつながることに、日々の保育に対して身が引き締まる思いが致しました。

コロナ禍の中ですが、子どもたちの育みに必要で変わらない幼稚園の日々を二学期も大切に過ごしたいと願います。保護者の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子